

2013年12月13日

企業会計基準委員会 御中

株式会社 プロネクサス
プロネクサス総合研究所

IASB ディスカッション・ペーパー「財務報告に関する
概念フレームワークの見直し」に関する意見

2013年8月12日に公表されました標記公開草案について、当研究所内に設置されている「ディスクロージャー基本問題研究会」で取りまとめた意見等を提出いたしますので、宜しくお願い申し上げます。

記

1. 質問1 「概念フレームワークの位置づけ」へのコメント

このままでは、同意しない。

(理由) 現状では、IAS第8号「会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬」においてGAAPヒエラルキーにおける権威ある文献とされているが、概念フレームワーク本文でGAAPヒエラルキーを構成することを明記してほしい。

2. 質問3 「財務諸表の構成要素」へのコメント

このままでは、同意しない。

(理由) 資産・負債の認識に関して蓋然性の要件が外されることの影響は大きいと考えられる。蓋然性の要件が外され、閾値を設けることが否定されることで、資産・負債の認識の問題は「○×(Yes or No)」の問題となる。IASBは「存在の不確実性」についての問題が生じることは稀であるとしているが、その判断は妥当か。「結果の不確実性」とは切り離された「存在の不確実性」に関する議論の具体的な内容(さらに、そもそもそのような議論が可能であるか否か)について、より詳細な説明が必要であるように思われる。

更に基準レベルで資産・負債がどのような場合に認識されないかを示すに当たっては、不確実性に関する概念的な考え方をIASBが示す必要があると思われる。

3. 質問4及び2. 52項「財務諸表の構成要素」へのコメント

2.52項でキャッシュ・フロー計算書の構成要素として、現金収入と現金支出があるが、現在のキャッシュ・フロー計算書で使われているキャッシュ・フローの概念は、厳密な現金収支ではないのではないかと。したがって、今後開発する場合には（現金同等物を含めるのであれば）、その中身を明確に定義することを望む。

4. 質問6「資産及び負債の定義」へのコメント

見解3を支持する。

（理由）「現在性」を解釈することによって、実質的に、負債の認識規準を定めているものと解される。この点では、定義を満たした負債はすべて認識するというもとの立場と矛盾するのではないかと。定義の局面においては、将来回避される可能性があるものも（幅広く）負債として説明した方が（すなわち、見解3を採用する方が）このペーパー全体としては整合的となると思われる。

5. 質問10「持分の定義」へのコメント

このままでは、同意しない。

（理由）そもそも国によって資本内部の内訳が異なることを容認しつつ、各請求権ごとに区分を要求するのは整合していないように思われる。

負債を厳格に定義し、残余を持分とする考え方には、賛成である。（日本基準とは異なり）株式オプションは、基本的に持分に含めることに賛成である。

ただし、主たる持分請求権（primary）を除く他の持分請求権の再測定は、慎重に検討すべきであろう。持分に含めた請求権は、伝統的に会計処理の対象とはしてこなかった。そもそも、異なる権利を有する持分請求者間の価値の移動を、会計が表現することは会計のテリトリーを大きく踏み出すことになる。株式そのものの価値（株価）ではないが、優先株や株式オプションの価値は、株価に大きく依存しており、これを会計処理の対象とすることは、（損益計算書外とはいえ）望ましくない。

他にも、株式オプションの価値が増加して普通株主の持分がマイナスになるような事態も想定され、このような場合に配当が認められるかなど、各国で国内問題も生じうる。

更に、劣後株式を発行している場合は、普通株式も再評価の対象となると解釈できるが、いかがなものか。

6. 質問 1 2 「測定」へのコメント

このままでは、同意しない。

(理由) 売却目的の投資不動産については現在市場価格が主観的ではあるものの、原価ベースの情報よりも目的適合性が高いことが多いと述べられているが(6.85 項)、投資不動産の保有目的が賃貸収益の獲得を目的としたものである場合、6.94 項で述べられているように原価ベースの情報が目的適合性の高い情報を提供する可能性が高いとの記載がある。

資産・負債の保有目的に基づく測定値の選択に当たっては、目的の変更などをどのように会計基準上コントロールするかが問題となる。この問題について、言及があるべきではないか。

7. 質問 1 3 「測定」へのコメント

このままでは、同意しない。

(理由) キャッシュ・フロー・ベースの測定 (cash-flow-based measurement) という表現は、分かりにくい。過去のキャッシュ・フローに基づく測定値と考えると、原価に基づく測定値との区別がつきにくい。「将来」キャッシュ・フロー・ベースの測定とでもすべきではないか。あるいは、入金(出金)予定額なども考えられる。

8. 質問 1 5 「測定」へのコメント

6.128~6.130 項で言及されている「企業自身の信用リスク」に対する取扱いについての記述は不明瞭なので、何を言っているのか分かりづらい。もっと明確に説明してほしい。

9. 質問20「包括利益計算書における表示」へのコメント

同意する。

(理由) 純利益の開示に対してポジティブな立場が採られ、少なくとも一部の項目のリサイクルングについて許容されている点は歓迎できる。ただし、具体的な項目の決定は実質的に先送りされているため、明確なコメントをすることが難しい。

10. 質問26「資本維持について」へのコメント

このままでは、同意しない。

(理由) 9.54 項に述べられているように、「資本維持概念」について、もっと詳細な検討が必要と考える。ほとんど変えずに改訂に含める予定については、同意しない。

以上